

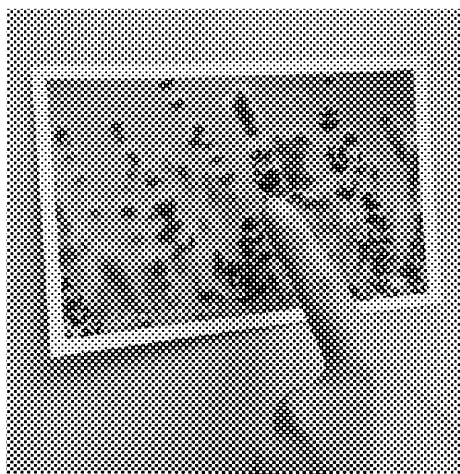
勝機をつかめ!

地域のグッドカンパニー

久保井インキ

香り印刷の需要を開拓

ラベンダーの写真が印刷されたはがき。紙や絵はがきなどに使われる面を指でこすり、鼻を近づけると花の香りがふわっと広がる。老舗インキメーカーの久保井インキ（大阪市東成区、久保井伸輔社長）が手がける「香り印刷」は、雑誌の付録や絵はがきなどに使われる。近年は展示会への出展や電子商取引（EC）販売を通じて、需要開拓を図る。



表面をこすると香りが放たれる

オフセット向け低コスト

の капсуルを紙やフィルムに印刷する仕組み。こするとカプセルがつぶれ、香りを放つ。「簡単につぶれないようにインキ化する技術が強みだ」と久保井社長は胸を張る。大量印刷が可能なオフセット（平板）印刷を得意とする。シルクスクリーンによる香り印刷を手がける他社よりコストを約3分の1に抑えられるという。アイスクリームの箱

菱田直樹・営業部係長 シール会社やパッケージ会社と長きにわたって関係を築いてきた。紙やインキについて相談を持ちかけられてもネットワークの中で解決できる、引き出しの多さが特徴だ。

▽設立51年（昭26）1月▽従業員約25人▽売上高非公表